

組織名	盛岡市まちづくり研究所
-----	-------------

1 組織概要

所在地	岩手県滝沢市巣子152-89 岩手県立大学地域連携棟内
TEL	019-694-3352(直通)
FAX	019-694-3331(代表)
URL	http://www.city.morioka.iwate.jp/shisei/machizukuri/thinktank/1009674.html
e-mail	kikaku@city.morioka.iwate.jp
設立	2008年4月1日
設置都市等	岩手県盛岡市・岩手県立大学
代表者	倉原 宗孝(所長／岩手県立大学総合政策学部教授)

2 組織動向

(1) 沿革

設置経緯	○盛岡市からの共同研究の申し入れにより、2008年、市と岩手県立大学が共同で設立した。 ○同研究所は、岩手県立大学地域連携研究センター内に2008年度からプロジェクト研究所の一つとして設置された地域づくり研究所内に位置付けられている。
見直しの動向	
役割(2019年時点)	地方分権の進展に伴い、盛岡市の現状と課題を分析し、緊急度や優先度の高いテーマについて、大学などの研究機関と共同研究し、新たな政策立案に役立てるとともに、市職員の政策形成能力の向上を図る。

(2) 組織体制

設置形態(択一)	<input type="checkbox"/> 自治体の内部組織 <input type="checkbox"/> 常設の任意団体(提言等を行う会議体型の団体も含む) <input type="checkbox"/> 公益法人(財団法人・社団法人) <input checked="" type="checkbox"/> 大学の附置機関 <input type="checkbox"/> 広域連合 <input type="checkbox"/> その他(具体的に:)
常勤職員数	2人
うち常勤研究員数	2人
非常勤研究員数	0人
専門性確保に関する特徴(複数選択可)	<input type="checkbox"/> 専門的な知識を有した研究員の採用 <input type="checkbox"/> 外部有識者の活用(研究員として採用した者を除く) <input type="checkbox"/> 大学・非営利活動法人等と連携した研究の実施 <input checked="" type="checkbox"/> 設置市の企画部署と連携した研究の実施 <input checked="" type="checkbox"/> 設置市の関係部署と連携した研究の実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他(具体的に:岩手県立大学の各分野の先生よりアドバイスを受けている。) <input type="checkbox"/> 特に行っていない
庶務体制	市(企画調整課)が主に行っている。
市民参加、外部連携	

(3) 会計

会計規模※人件費・間接費(オフィス賃借料、水道光熱費等)は含まない		
2019年度予算	1,495 千円	
2018年度決算	1,164 千円	
2017年度決算	1,146 千円	
自治体の内部組織以外の団体の場合の事業活動収入の主な内訳(多い順に選択)	順位	収入種別
	1位	その他(具体的に:自治体設置部局の予算)
	2位	
	3位	
	4位	
自治体の内部組織の場合の事業活動収入の主な内訳(多い順に選択)	順位	収入種別
	1位	
	2位	
	3位	
	4位	

組織名	盛岡市まちづくり研究所
-----	-------------

3 活動動向

(1) 活動実績	
定期刊行物	研究報告書(年1回発刊)
(2) 活動のマネジメント状況	
ア テーマ決定 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 設置市からの要請 <input type="checkbox"/> 外部有識者等からの助言・示唆 <input type="checkbox"/> 貴団体・組織で、設置市の総合計画等に明記された重要課題から選択 <input type="checkbox"/> 貴団体・組織で自ら発案 <input checked="" type="checkbox"/> その他(具体的に:市からの提案を受け、両者(市と大学)で協議して決定する。)
イ 情報発信 (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 設置市の議員や幹部職員に、報告や提言を行う <input checked="" type="checkbox"/> 設置市の関係部署に、報告や提言を行う <input checked="" type="checkbox"/> 設置市の庁内の広範囲に、成果物を配布する <input checked="" type="checkbox"/> 報告会を実施する <input type="checkbox"/> 日常的活動を、HP・メールマガジン・ニューズレター等で周知する <input type="checkbox"/> その他(具体的に:) <input type="checkbox"/> 特に行っていない
ウ 活動の評価とその反映 (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 設置市の行政評価制度により評価を受けている <input type="checkbox"/> 運営委員会等、貴団体・組織の運営に関わる機関から評価を受けている <input type="checkbox"/> 外部有識者から評価を受けている <input type="checkbox"/> 報告会・アンケート等の機会を設けて、評価を受けている <input type="checkbox"/> その他(具体的に:) <input type="checkbox"/> 特にそういう機会はない

4 特記事項

研究員の業務分担	研究テーマごとに担当研究員を1名ずつ配置している。
研究員の専門性 育成の手立て	<p>○研究テーマに関連のある研修・シンポジウム等への出席に努めている。</p> <p>○学外を含めそれぞれの研究分野と関わりのある研究者や、現場での活動を実践している方と広くつながりをつくるよう努めている。</p> <p>○大学の図書館等を利用しながら先行研究や文献調査を実施している。</p>
研究員のキャリアパス等	<p>○研究員は公募制または人事異動により採用しており、公募制の場合は、書面及び面接により選考。</p> <p>○過去のキャリアパス例</p> <p>i) 清掃事業所管理課→商工課→都市計画課→本研究所→地域協働推進事務局</p> <p>ii) 市民生活課→農業委員会事務局→企画調整課→本研究所→地域福祉課</p> <p>iii) 中央卸売市場→職員課→本研究所→資産管理活用事務局</p> <p>iv) 市立病院総務課→行財政改革推進課→行政経営課→本研究所→広報ブランド戦略室</p> <p>v) 健康福祉課→玉山総合事務所総務課→市民活動推進課→本研究所→こども未来課</p> <p>vi) 都南図書館→納税課→議会事務局→本研究所</p> <p>vii) 衛生処理組合→国保年金課→企画調整課→中央卸売市場→本研究所</p>
その他	<p>○研究員の身分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盛岡市職員の身分のまま、大学の共同研究員としての資格を得ている。 <p>○大学との共同研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究に要する研究経費は、原則として市の負担である。 ・共同研究期間は、研究テーマごとに2年間としている。

5 2019年度に実施した調査研究

調査研究名	調査研究の概要
盛岡市におけるアクティブシニアの活躍の推進について	<p>本市の人口は、平成12年をピークに人口減少に転じている一方、老年人口(65歳以上)の割合は年々上昇し、今後少子高齢化が進展し、人手不足や経済的影響が深刻になっていくものと見込まれる。趣味等に意欲的に取り組む高齢者は、アクティブシニアと呼ばれ、体力的・経済的・時間的な余裕があるものと思われるが、その特性を捉え、彼らのこれまでの知識及び経験を生かした就労や社会貢献活動を支援する盛岡らしい活躍プランを提案するとともに、それが社会的リソースとして地域へ及ぼす波及効果を検討する研究。</p> <p>市ホームページ: http://www.city.morioka.iwate.jp/shisei/machizukuri/thinktank/1009675.html</p>
盛岡の農業の現状と課題解決に向けた施策について～新しい力で盛岡の未来を拓く～	<p>本市では、戦略プロジェクトの一つに『「食と農」・「ものづくり」応援プロジェクト』を掲げ、課題解決に向けて取り組んでいるが、平成27年度の基幹的農業従事者の平均年齢は67.1歳であり、一層の高齢化と担い手不足、耕作放棄地の増加などが懸念される。このことから、農業を魅力ある産業に、また、稼ぐ農業として農家経営を持続可能なものとするために、本市の特徴を生かした施策を提言する研究。</p>